

全校朝礼 ～ 校長講話 ～

9月13日の全校朝礼は、内藤善文校長による講話でした。校長先生のご友人であり、2011年3月11日の東日本大震災で被災された宮城県水産高校の若松英治先生のお話でした。

震災前の様子や実際に感じた揺れ、震災後の津波の様子等、実際の写真を見ながらの具体的な話がありました。震災直後は水が校舎に迫っており、車は水没し、ライトが点滅していたそうです。震災後の学校では、地域住民や生徒等、大勢の人が避難してきましたが、水産高校は避難場所であり、避難所ではないため、水や食料、毛布がない状態でした。そのような状況の中で、体育館のカーテンを毛布や布団代わりにしたり、停電の中で灯油のストーブを用いたりしたようです。また、家族や恋人、友人と連絡が取れない状態が続き、不安な日々を過ごした話から、改めて家族がいることの安心感・あたたかさ・幸せを普段から感じてほしいと話されました。さらに、学校が5月に再開されたときには、施設が使えない状態になっていたが、若松先生は今できることは何かを前向きに考え、行動されたそうです。

このような話の中で、「アイデアを出すということがいかに生きていくうえで大事か。アイデアや工夫は自分の中にある。紙と鉛筆とやる気があれば、何でもできる。施設設備が立派だからといって何かすごい発見や、発明ができるとは限りません。やる気、何を目指してどう行動するかが重要です。」と話されました。最後に、震災への準備をしっかりするよう呼びかけました。

南海トラフ地震はいつ起こるかわかりません。今一度、食料や飲料の備蓄の準備や、家族で安否方法を確認等、対策を見直してみましょう。



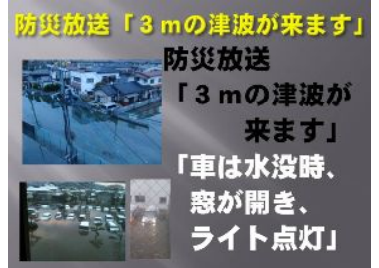
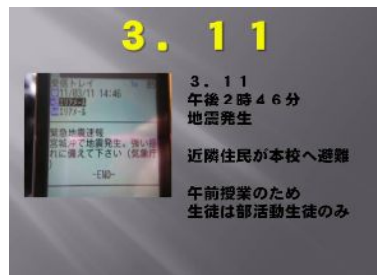
全校朝礼(校長講話)



講話をする内藤校長



講話の様子



数百mの差

本校付近の被害が比較的小さかっただけであって、数百m離れたところでは、車や船はもちろん、家も流されていた。

「○○はないけど、△△がある、今できることはなんだろう？」
誰かのせいにしたり
何かのせいにしたり
動かない自分の言い訳を探すより

**「ポジティブ」に考えて
行動する人が結果的に成功**

新たな方向性の確立
大震災を経験して
知的財産学習に出会い
「アイデア：考えること」
「行動：アイデアを形にすること」
の大切さを知った

以降、様々な「商品」、
「発明品」が生まれている！

**最大の支援は
「たまに気にかけてみる」**

宮城県では
「鎮魂の日」
学校は休み

この日、私は毎年
夕食を食べません

年に一度、こんな日があったら・・・

**電気もガスも水道も使わない
(トイレは備蓄水で流すのみ)
食事は缶詰を食べる**

モノ、心構え、環境整備など、
有事に対応した準備ができる！

そして、被災地の状況を気にかけてみる

学びを活かす衛生管理
食品科学類型の「衛生学」が活かた。

外から建物内に入る際は、
「泥を落として靴底をきれいにしてから」
何が含まれているかわからない泥
→破傷風、結核予防。
ぜんそくを引き起こすことも懸念。

トイレ後は、プールの水で流す
トイレの後は必ず手洗い、アルコール消毒

衛生管理 2

長靴、マスク、軍手の着用
水はなるべく確保して手洗い用にしたい
節水のため、皿にラップをする
迅速な救急搬送ができる連絡体制
など

<結果>
「感染性胃腸炎」「インフルエンザ」
などの感染症が出なかった。

防災
災害時は
「一刻一刻と状況が変化」
瞬時にベストを選択しなければならない

「防災」
＝最悪の状況を想定したそなえ
＝ベストの選択を前もって準備